

長期療養中の小児悪性腫瘍患児の 心理的問題に関する研究

岡村 純

要約：治療終了後の症例の両親へのアンケート調査と患者本人へのインタビューを行った。80例の両親の82%は現在でも原病の再発への不安を抱いており、20%は【現在でも子供に精神的な問題がある】と答えた。患児22名中42%が再発への不安を訴え、病名については60%が知らされて【良かった】と答えたものの【知らせて欲しくなかった】との意見もみられた。つらかった治療経験を、【自分が強くなった】【生きている価値を実感する】【弱いものの気持ち分かる】など前向きに捉える患児がいる一方で、【すぐに諦めるようになった】などの感想もみられた。

見出し語：小児悪性腫瘍、精神的問題点、両親アンケート、患児インタビュー

1) はじめに

小児がんの治療成績の向上とともに、現在では約70%の症例が長期生存するようになったものの、これらの患児におこってくる種々の晩期的障害が指摘されている。さらにこのような患児自身における精神的な面での問題点についての検討はこれまであまりされておらず、ようやく始まったばかりである。そこで治療を終了して原疾患を克服したと考えられる患児にどのような精神的、心理的問題点があるかを検討するため、両親へのアンケートや患者自身とのインタビューを行った。

2) 対象

1988年以前に診断され、現在は原疾患の治療を終了している症例。

3) 方法 (図1、図5)

107例の両親へアンケートを送付し、22例では患者自身にインタビューを行った。両親へのアンケートは、現在の子供の健康状態、精神的、心理的問題点、家庭内での問題点さらに子供に対する病名の告知の有無について質問した。また、診断時年齢が5才以上であった症例では、患者自身に同じ様な質問をおこなって良いかどうかを尋ねた。アンケートの回答は無記名とし、患者への

インタビューが許可された場合のみ質問者へ氏名が分かるようにした。

4) 結果

イ) 両親へのアンケート

アンケートは107例の両親へ送付し80例(75%)から回答を得た。患児の診断時および調査時の年齢中央値は、各々6才と16才で、診断名は急性白血病、悪性リンパ腫、睾丸腫瘍の順であった。(図1)

80例中84%の両親は現在の子供の健康状態に満足していた。また親の50-60%は、振り返ってみて【治療中、子供に何らかの精神的、心理的問題があった】ことを覚えており、内容としては【子供が脱毛に悩んだ】【内服が心理的負担になっていた】などが最も多く、そのほか【死の不安を訴えた】などであった。また親から見て、現在でも患児の20%に問題があり、その多くは【再発に対する不安、悩み】や【意志が非常に弱くなった】などであった。(図2)

家庭内に何らかの問題が起こったかとの問には、約3分の1の症例が、【兄弟が非行に走った】【夫婦の仲が悪くなった】などとこたえ、一方では却って【家族の絆が強くなった】家族もあった。(図3)

図-1

両親へのアンケート調査

(80例 / 107例 回答率75%)

質問内容	患児の年齢
1) 現在の子供の健康状態に満足しているかどうか	診断時 0-18才 (6才) 調査時 6-30才 (16才)
2) 今までに子供に何か精神的、心理的問題が起こったか	診断名
3) 治療期間中の家族関係について- -家庭内に何か問題が起こったか	急性白血病 35例
4) 子供の将来について-何か不安があるか	悪性リンパ腫 15
5) 子供に対する病名の告知について	睾丸腫瘍 4
6) 患者に直接面談しても良いか (診断時年齢が5才以上の症例)	神経芽腫 3
	骨腫瘍 3
	横紋筋肉腫 3
	甲状腺腫瘍 3
	その他 14

図-2

今までにお子さんに何か精神的、心理的問題がありましたか？

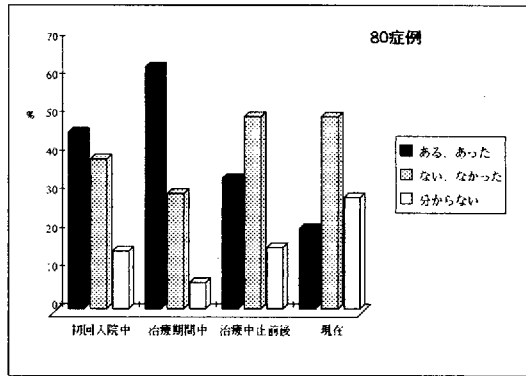


図-3

家庭内に何か問題が起こりましたか？

お子さんは自分の病名を知っていますか？

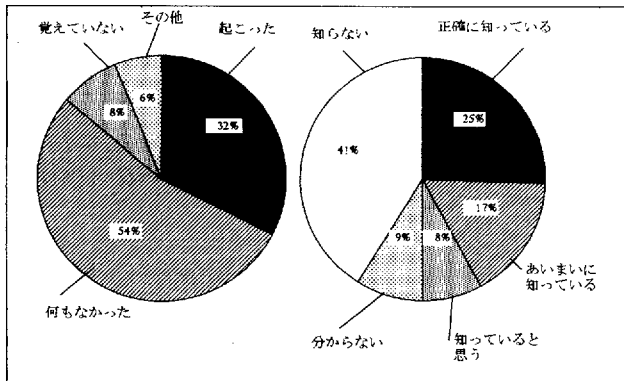


図-4

子供の将来に何か不安がありますか？

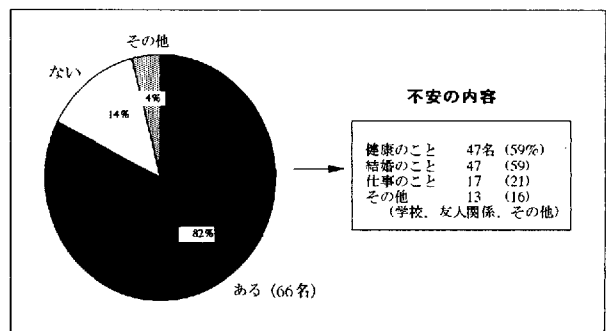


図-5

個人インタビューの項目と対象

質問項目	対象	(22名)
1) 現在の状態(職業)、家族構成、健康状態	男女	各11名
2) 今まで不安や問題 (具体的に)	年齢	診断時 5-18才 (11才) 面談時 15-30才 (20才)
1. 治療中、辛かったこと、辛いときの支えは?	診断名	
2. 学校生活に戻って辛かったこと	悪性リンパ腫	8 (5) 名
3. 友達関係、勉強、家族関係、就職 (仕事) 結婚について	骨腫瘍	4 (3)
4. 療養生活がその後の生活に影響したか?	急性リンパ性白血病	4 (0)
5. 病名を告知されたことについてどう思うか (告知の時期)	その他	6 (5)
6. 健康上の不安は? (病気の再発・身体的問題)	現在の状態	
7. 生命保険について	高校生	5 (1) 名
8. 不安をどのように解決したか? (誰に相談したか)	専門学生	3 (1)
9. インタビューの感想について	大学生	4 (3)
	社会人	9 (7)
	無職	1 (1)

() 病名を知っていると考えられる数
合計13名 (両親による)

図-6

個人インタビュー結果 (1)

病名を告知されて

再発に対する不安

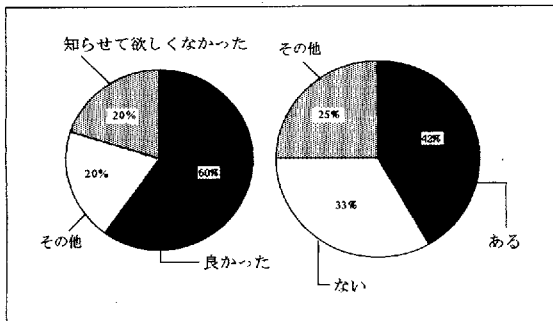


図-7

個人インタビュー結果 (2)

治療経験がその後の自分の性格や生活にどのように影響したと思うか

- | | |
|---|-----|
| 1. 乗り越えたという自信
生きている価値を実感する
自分は強くなった、我慢強くなった
自立心が向上
良い経験 | (7) |
| 2. 人の苦しみや弱いものの気持ち分かる
(病人、身障者、子供など) | (5) |
| 3. すぐに諦める
病気でないかとすぐに不安になる
大人の顔色をうかがう | (3) |
| 4. その他 | (4) |

【子供が病名を知っているか】との質問には、20例(25%)が【正確に知っている】と答え、うち13例では両親が病名を告知していた。合計50%の親は【知っている、知っていると思う】と答えたが、41%はいまだに【知らない】と考えていた。(図3) 80例中66例(82%)の親は、子供の将来に対していまだに強い不安を抱いており、特に【子供が再発をおこさずに今の健康状態を保てるか】【正常の結婚生活ができるか】などが主な関心事であった。(図4)

ロ) 患児個人へのインタビュー

承諾が得られた22例について個人インタビューを行った。両親によれば、22例中13例は病名を知っていたが、9例では【患児が知らないので病名には触れないで欲しい】という条件付きであった。

対象は、男女各11名、調査時の年齢中央値は20才、診断名は悪性リンパ腫、骨腫瘍、急性リンパ性白血病の順であり、インタビュー時の職業は、学生12名、社会人9名、無職1名であった。元小児科に勤務していた経験の深い一人の看護婦が約1時間をかけて、両親に行ったアンケートとほぼ同様の質問を本人に行うとともに、【治療経験がその後の自分の生活にどう影響したか】【病名を告知されたことをどう受け止めているか】などについても尋ねた。(図5)

治療中止後平均7.5年経過していることもあり、治療中の苦しみは患児の中ですでに風化されつつあるとの印象をもったが、【脱毛を含む治療の副作用】および

【勉強が遅れたこと】が最もつらい悩みだったとの回答であった。さらに質問出来た12例中5例(42%)が現在でも再発への不安を訴えた。(図6) また【病名を知らされた】のは10例で、他の4例は【自分で知った】と答え、60%は【知らされて良かった】【もっと早く教えて欲しかった】と答えたものの、知らせたくなくなつたとの意見も見られた。

【過去の辛い治療経験は自分にどのように影響していると思うか】との質問には【自信を与えてくれた】【生きている価値が実感できる】さらに【他人、特に弱いものの気持ちが良く理解出来るようになった】などpositiveに捉えている症例が多い反面、【すぐに諦める傾向がある】【大人の顔色をうかがうようになった】などの感想も見られた。またインタビューの過程で、11才の時片足の切断を受けた30才の骨肉腫の女性が【足に負担をかけないために痩せたい】との強い願望から下剤、利尿剤などを多用するなど強度の心身症(Anorexia nervosa)に悩んでいることが判明した。(図7)

5) まとめ

今回の検討から、原病を克服したと思われる長期生存中の患児、および両親においても様々の精神的、心理的問題点が存在することが分かった。一方、わが国においては、これらの問題に対する治療者側の対応は明らかに不十分であり、ケースワーカーや心理学者なども含めたチームや態勢を、治療開始の時期から作って長期にわたり観察する必要があると思われた。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:治療終了後の症例の両親へのアンケート調査と患者本人へのインタビューを行った。80 例の両親の 82%は現在でも原病の再発への不安を抱いており、20%は【現在でも子供に精神的な問題がある】と答えた。患児 22 名中 42%が再発への不安を訴え、病名については 60%が知らされて【良かった】と答えたものの【知らせて欲しくなかった】との意見もみられた。つらかった治療経験を、【自分が強くなった】【生きている価値を実感する】【弱いものの気持ちが分かる】など前向きに捉える患児がいる一方で、【すぐに諦めるようになった】などの感想もみられた。